



TITLE:

五月の星の空

AUTHOR(S):

CITATION:

五月の星の空. 天界 1928, 8(86): 230-231

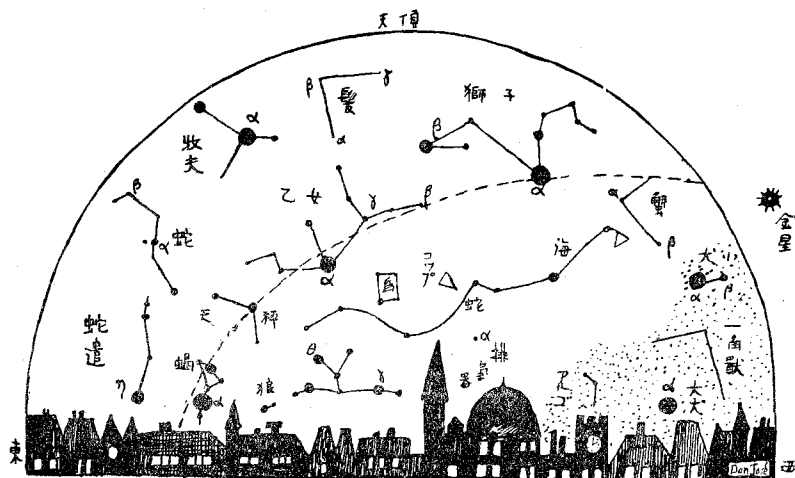
ISSUE DATE:

1928-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161277>

RIGHT:



五月の星の空 (北天)

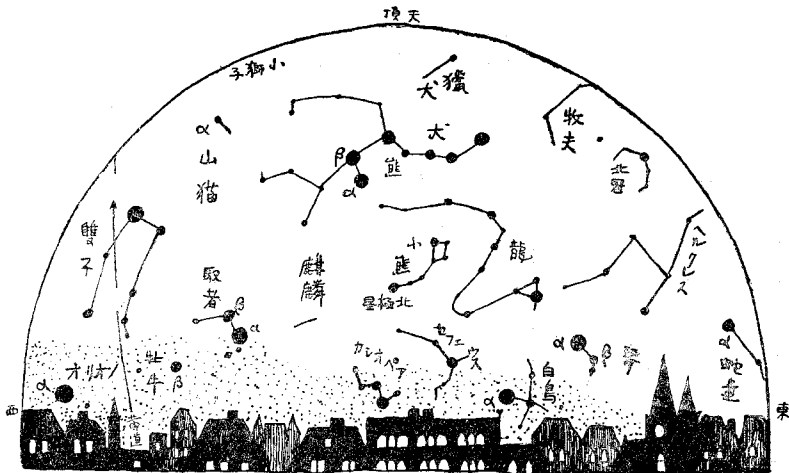
恒星界

北斗七星が丁度横になつて、龍がその下にうれつてゐる。オリオンは最早やすつかり姿をかくして了つたが、まだ小犬丈が冬の名残をさぞめてゐる。併しもう東の空には夏の親玉の琴や蝸が顔を出し始めてゐる。今や中天には獅子、乙女、髪等の春の代表者がおもむろに西に向つて進んでゐる。南方遙かには海蛇が長長と横たはり、その傍にはコップ、鳥等が可愛らしい姿を見せてゐる。

天の河は殆んど地平線に沿ふて流れ、僅かの一部分づつが見られるのみ、從つて可成り淋しく感じられるが、それでも一等星としては北に大熊、白鳥、西に双子、小犬、南に獅子、乙女、東に牧夫、琴等の主星があつて、まばらではあるけれども適當に天全體に配布されてゐる。

殊に遊星界の人気者たる土星が此の月の末から來月の始めにかけて、最も近くから小望遠鏡での觀測には持つて來いの目的物である、且例の環の傾きも此の頃は大きいので素晴らしい姿である。

手頃の望遠鏡で面白い星では、牧夫座のデ星の二重星は光度が3.5等と伴星が7.4等で對照が美しい、同じく牧夫の μ 2星は7等と8等の光度の連星で週期は約250年であり兩星間の距離は1.6秒(角度)であるから3吋望遠鏡の試験星として適當であらう。



五 月 の 星 の 空 (南天)

太 陽 系

太陽、月半ばまで金牛宮で、21日より双子宮に入る。星座は月の前半が牡羊座後半は牡牛座である、19日夜半日蝕があるが日本からは見へない。

月、	5日午前5時12分	満月	19日午後10時14分	新月
	13日午前5時50分	下弦	26日午後6時12分	上弦
	5日正午過ぎ	遠地点通過	19日正午過ぎ	近地点通過

水星、3日外合故月度末でないとも見られぬ、21日午前5時月と合、月末の光度零等、視直徑7.5秒、宵の星である。

金星、暁の星だが太陽に近い。

火星、光度正1等、視直徑6秒、未だ観望の時期でないが位置は春分点に近く、夜半後に東に登り、朝南中に近い。

木星、太陽より2時間程早く東に出る。地球からの距離遠く視直徑32秒、光度負1等である。

土星、此の月が最も見頃である。此の月の中頃から來月の始めにかけて最も地球に近づき、視直徑は16秒、光度も零等、且つ環の傾き大で甚だ見事である。而も夕方から東に登り夜中見へてゐるから観望には最適、8日午前2時月と合。

天王星、夜半後に出現。光度は6等、視直徑3秒、16日午前8時月と合。

海王星、夕刻丁度南中する。8時留まり其の後順行に移る。光度8等、視直徑2秒。